

	一般的名称	報告の概要
768	コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム	コリスチンを投与されたICU患者86例を対象としたレトロスペクティブな観察研究において、腎毒性が56例中24例に発生した。
769	塩酸ヒドララジン	ヒドララジンを妊娠SRH(高血圧自然誘発ラット)に妊娠10-20日まで連続投与したところ、胎児死亡、胎児の子宮体形成不全が見られた。
770	乾燥濃縮人活性化プロテインC	18歳以上のDrotrecogin alfa投与を受けた重症敗血症患者287例を対象としたレトロスペクティブ研究において、12例に重篤な出血が認められた。
771	塩酸ピオグリタゾン	多嚢胞性卵巣症候群患者30例を対象とした無作為化二重盲検プラセボ対照比較試験において、ピオグリタゾン投与により腰椎、大腿骨頸部、大腿骨転子部の骨塩量が有意に低下した。
772	エストラジオール	ホルモン補充療法を長2年を越えて使用している患者は、6ヶ月未満の使用者と比較して乳癌による入院リスクが高まり、経皮剤より経口剤でそのリスクが高まることが示唆された。
773	エストラジオール	エストロゲン単独療法を6年以上行い、注視して6年未満の女性において子宮内膜癌発症リスクが高まり、エストロゲン単独使用を完全に中止した女性は、エストロゲン単独使用からエストロゲン・プロゲステリン併用療法に切り替えた女性よりも子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。
774	エストラジオール	経口エストロゲン、プロゲステリン併用療法を使用している患者は、貼布剤使用患者に比べ、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
775	エストラジオール	エストロゲン補充療法を40ヶ月を越えて使用している女性は、健常女性と比較して乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
776	エストラジオール	30-50歳の女性において、ホルモン補充療法使用者は、未使用者と比較して乳房異常の発生率が高く、乳癌のリスクが高まることが示唆された。
777	エストラジオール	マンモグラフィースクリーニングを受けた閉経後女性において、エストロゲン・プロゲステリン併用療法を5年以上している場合、乳癌発現リスクが高まることが示唆された。
778	エストラジオール	閉経前後の女性8161人を対象としたコホート研究において、ホルモン補充療法を使用している患者では乳癌、子宮内膜癌の発症が高まることが示唆された。
779	エストラジオール	新規子宮内膜癌患者591人を対象としたケースコントロール研究において、ホルモン未使用者と比べエストロゲンと周期的なプロゲステリン併用(10日</月)及び連続的なプロゲステリン併用により子宮内膜癌のリスクが高まることが示唆された。
780	エストラジオール	30-55歳の看護婦121700例を対象としたプロスペクティブなコホート試験において、閉経後のホルモン使用者は小葉癌とホルモンレセプター陽性腫瘍のリスクが上昇することが示唆された。
781	エストラジオール	45歳以上の女性看護師23178例を対象としたコホート研究において、エストロゲン・プロゲステリン併用療法を現在使用している患者では乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
782	エストラジオール	閉経後女性23618例を対象としたコホート研究において、エストロゲン・プロゲステリン連続併用療法使用者は、エストロゲンレセプター陽性乳癌との関連が高いことが示唆された。
783	エストラジオール	閉経後の看護士10874例を対象としたコホート研究において、ホルモン補充療法使用者は、未使用者と比べて乳癌発症リスクが高まり、ホルモンレセプター陽性乳癌のリスクが高まることが示唆された。